

はじめに

私は、1953年（今から71年前）、高校1年生の時に、イエス様を信じる決心をして、洗礼を受けました。しかし、お恥ずかしいことに、自分がクリスチャンであるという確信がなかなか持てませんでした。そんなとき、自分で聖書を読んでいて、今読んだ聖書のことばに出会い、「ああ、そうだったのか」と、目から鱗が落ちて、自分の救いを確信することが出来ました。そのときの気持ちは、うれしくて、嬉しくて天にも昇るほどでした。

多くの人は、神様が私たちに何かを求めていると思い、自分にはそれは出来ないと感じています。しかし、今朝は、神様はまず私たちに何かをお与えになろうとしている。私たちは、それを受ければよいのだということを、知って頂きたいのです。

1 不敬虔な者を義と認めてくださる神。

神様については、「天地万物をお造りなされた神」「神子をお与えになったほど私たちを愛してくださる神」「気落ちした者を慰めてくださる神」など、いろいろな言い方があります。今日のみことばからは、「不敬虔な者を義と認めてくださる神」となります。そのことを考えてみましょう。

(1) 不敬虔な者。

「不敬虔な者」ということばに注意してください。「何の働きもない者」とありますが、それは「神様に何一つ良い働きをしていない者」です。神様に喜ばれるようなことは、何もしていない。それどころか、「不敬虔」である。神様を信じていない。信じていても、従おうとしない。神様を敬っているとは、とても言えない。そういう人です。

適用：神様が受け入れてくださるのは、信仰の厚い、まじめな人と思いませんか。自分のような信仰の薄い、ふまじめな者は受け入れて頂けないのではないかと考えていませんか。では、本当にそうなのでしょうか。

(2) 義と認めてくださる。

次に「義と認めてくださる」とは、どういうことでしょうか。それは「罪を認めない」「無罪である」ということです。神様は、「何の働きもない者、不敬虔な者」を、罪を認めず、無罪であると宣告し、受け入れてくださるということです。

適用：イエス様はこう言われました。

「医者が必要とするのは丈夫な者ではなく、病人です。わたしは正しい人と招くためではなく、罪人を招くために来たのです」(マタイ 9:12-13)

2 なぜ、神は不敬虔な者を義と認めてくださるのか。

弁護士は、罪のない人を弁護して、無罪を獲得することは出来ますが、罪を犯している人を無罪にすることは出来ません。もしそうしたら、弁護士の方が罪を犯すことになります。

では、神様は、罪を犯した者を赦しても罪にならないのでしょうか。正義の神様は、罪人を罰するからこそ、正義なのではないのでしょうか。ただ、神様がその通りに罪を罰したら、罪を犯している私たちはみな、罰せられて滅びなければならぬのです。

そこで神様は、人間の罪を罰してなお、人間の罪を赦すという「手品」のようなことをなさいました。それが、イエス・キリストの十字架なのです。イエス様は、神のひとり子として、神と共に永遠に存在される方です。神様は、神様に罪を犯した私たちを救うために、神子を人間としてこの世にお遣わしになり、私たち人間の罪を御子イエス・キリストに負わせ、私たちの身代わりに御子を罰したのです。そこで、神様は正義を実行しました。そして同時に、私たちの罪を赦そうとされたのです。

3 不敬虔な者を義と認めてくださる方を信じるなら。

神様は、不敬虔な私たちを義と認めて、受け入れてくださいます。ただ、それには一つの条件があります。それは何でしょうか。努力してこれから良いことをすることでしょうか。そうではありません。「不敬虔な者を義と認めてくださる方を信じる」ことです。

適用：自分はどうしようもない不敬虔な者だ。だけど、このような自分を神様は義と認めてくださるのだと信じるなら、行いではなく、その信仰が義とみなされるのです。

例話：スボルジョンという説教者の説教に出てくる話ですが、ある画家がある町を描くにあたってその町の一番象徴となる者は何かを人に聞きました。すると、一人の男を紹介されました。それは、ぼろぼろの服を着た、貧しい男でした。画家は、その男に会い、「あなたのことを描きたいので、明日アトリエに来てほしい。お礼はたくさんするから」と頼むと、翌日その男はやって来ました。しかし、すぐに画家に追い返されてしまいました。その理由は、その男が、自分を描いてくれるというので、風呂に入り、頭に油を塗り、立派な服を着て現れたからです。画家は、ぼろぼろの姿をした男を描きたいと思っていたからです。

適用：神様は、私たちが神の前に着飾ることを望んではおられません。いいかっこす

る必要はないのです。いくら私たちは繕ってみても、自分の醜さを隠すことはできません。ありのままの姿でいいのです。こんなに醜い自分を神様は、そのまま受け入れてくださると信じればいいのです。神様は、その信仰を義と認めてくださるからです。

結論 聖書が私たちに求めているのは、

- 1 神様がおられて、求める者には必ず応えてくださると信じること。
- 2 自分が神様に罪を犯していることを認めること。
- 3 イエス様が私たちの罪の身代わりとなって十字架にかかり死んでくださったこと、そして復活して、生きた救い主として私を迎えてくださることを信じること。
- 4 イエス様を信じるだけで、自分の罪が赦され、神様の子どもとして受け入れられることを信じること。

招きのことば

イエス様は、あなたの罪を赦すために、十字架におかかりになりました。あなたの罪を赦し、あなたが天国に行けるようになってほしいのです。

「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」

「見よ。わたしは戸のそとにたって叩く。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする」

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」

祈り

父なる神様。あなたの御子イエス・キリストを感謝します。

私はあなたに罪を犯して来ました。地獄に投げ込まれても当然な人間です。

しかし、イエス様は、私の罪のために十字架にかかり、私のために死んでくださいました。

あなたは、私のすべての罪を赦してくださると言われました。感謝します。

私は、いま、イエス・キリストを私の救い主、私の神として信じ、受け入れます。

あなたは、私をあなたの子として受け入れてくださり、私を新しく生まれさせてくださることを感謝します。

今日からあなたに従っていきます。どうぞ、弱い私を導いてください。

イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。